

中学校へのスムーズな進学に向けた支援のあり方
－児童・生徒の交流と移行支援の改善に向けたとりくみを通して－

1 設定理由

小学校から中学校への進学は、人的・物的な環境の大きな変化から、どの児童にとっても期待と不安のある移行期である。旭市では、各中学校区ごとに、それぞれ小学校から中学校への移行支援の充実に努めている。しかしながら、保護者・児童の中学校進学への不安は少なからずあり、小学校から中学校への移行支援が十分であるとは言い切れない現状がある。

本中学校区（第二中学校区）は、5つの小学校から1つの中学校への進学となるが、学区の児童・生徒が集まる機会はわずかで、特別支援学級在籍の児童どうしであっても互いに関わりがないまま入学を迎えることが多く、中学校での人間関係に不安をもつ児童もいた。また、本中学校区の児童は、見学会・体験学習・事前相談会と計3回、中学校に行つて学校の様子を見たり聞いたりしているが、実際に中学校生活が始まると小学校との大きな変化に戸惑ったり困ったりするケースが多く、スムーズな進学ができていないことがあった。

そこで、「スムーズな進学」を「小中の接続が滑らかになり、児童が自ら小中の段差を乗り越えて行ける状態」と定義し、そのための支援のあり方について明らかにしたいと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 本地区の合同学習会の課題を検討し、児童・生徒の交流の場としての視点で見直しを行うことで、中学校区内の交流が充実し、中学校入学前の不安軽減につながる学習会が計画できるであろう。
- (2) 小中の移行支援について、近隣の中学校区のとりくみの様子や、幼保小の移行支援を参考にすることで、改善方法が明確になり、よりスムーズに進学を支援するためのとりくみが行えるであろう。

3 研究内容

- (1) 合同学習会「ふれあい大会」「中学校合同体験学習会」の課題を検討する。
- (2) 近隣の中学校区の実践を調査し、本中学校区の実践との比較を行う。
- (3) 本校の幼保小の移行支援を、小中の移行支援との比較する。
- (4) 小中の移行支援について改善を図り、実践を行う。

4 結論

- 昨年度までの課題を検討することで、交流がより充実する形で、合同学習会「ふれあい交流会」の実施計画を立てることができた。
- 中学校への移行支援において「中学校入学前の交流の充実」「移行支援の早期実施」「教職員間の情報共有の充実」等の課題が明確になり、その改善に向けてとりくむことができた。
- 「ふれあい交流会」や「教員の相互授業参観」について、とりくみをもとに成果と課題を明確にし、来年度改善を図っていく。

中学校へのスムーズな進学に向けた支援のあり方

－児童・生徒の交流と移行支援の改善に向けたとりくみを通して－

1 設定理由

小学校から中学校への進学は、人的・物的な環境の大きな変化から、どの児童にとっても期待と不安のある移行期である。東総支部（旭市・銚子市・匝瑳市の3市）の特別支援教育研究部の教員64人を対象とした「特別支援教育における課題について調査（複数回答可）」では、「小中連携の充実」を全体の47%にあたる30人の教員が課題にあげていて、「通常の学級と特別支援学級における交流及び共同学習」の30人、「通常の学級における支援」の29人と並び、特に高い傾向にある。課題とした理由としては、「児童・生徒の交流の機会の少なさ」「教科担任制への移行」「正確な引き継ぎの難しさ」等、様々である。調査の結果から、小中連携による移行支援の充実は、地域の課題であるとも言える。旭市では、各中学校区ごとに、それぞれ小学校から中学校への移行支援の充実に努めている。しかしながら、中学校入学後の変化は非常に大きい。教科担任制が始まり、学習内容が難しくなる。さらには、授業の時間が長くなり、休み時間は短くなる。新しい友だちや教員の中で、本格的な部活動も始まる。そんな中、保護者と児童の中学校進学へ向けての不安は少なからずあり、小学校から中学校への移行支援が十分であるとは言い切れない現状がある。

本中学校区（第二中学校区）は、5つの小学校から1つの中学校への進学となるが、学区の児童・生徒が集まる機会はわずかで、特別支援学級在籍の児童どうしであっても互いに関わりがないまま入学を迎えることが多い。中学校での人間関係に不安をもち、「新しい友だちと仲良くできるかなあ。」「先輩は優しくしてくれるかなあ。」と話す児童もいた。また、本中学校区の児童は、見学会・体験学習・事前相談会と計3回、中学校に行って学校の様子を見たり聞いたりしているが、実際に中学校生活が始まると小学校との大きな変化に戸惑ったり、困ったりするケースが多く、スムーズな進学ができていないことがあった。

そこで、「スムーズな進学」を「小中の接続が滑らかになり、児童が自ら小中の段差を乗り越えて行ける状態」と定義し、そのための支援のあり方について明らかにしたいと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 本地区の合同学習会の課題を検討し、児童・生徒の交流の場としての視点で見直しを行うことで、中学校区内の交流が充実し、中学校入学前の不安軽減につながる学習会が計画できるであろう。
- (2) 小中の移行支援について、近隣の中学校区のとりのくみの様子や、幼保小の移行支援を参考にすることで、改善方法が明確になり、よりスムーズに進学を支援するためのとりのくみが行えるであろう。

3 研究内容

- | |
|--|
| (1) 合同学習会「ふれあい大会」「中学校合同体験学習会」の課題を検討する。 |
| (2) 近隣の中学校区の実践を調査し、本中学校区の実践との比較を行う。 |
| (3) 本校の幼保小の移行支援を、小中の移行支援との比較を行う。 |
| (4) 小中の移行支援について改善を図り、実践を行う。 |

(1) 合同学習会の課題の検討

①「ふれあい大会」について

3市（銚子市・旭市・匝瑳市）の特別支援学級・特別支援学校合同校外学習「ふれあい大会」を行い、互いの学習の成果を発表し、交流をした。

ア 日時 2016年11月18日（金）9：00～11：00

イ 活動場所 いいおかユートピアセンター（旭市の公民館）

ウ 活動内容 各校の学習発表会・交流ゲーム・頒布会

エ 児童の様子

事前指導において、5年生Aは、「盗賊の頭の役を堂々とやる。」「けんかをしない。」「他の学校の友だちと話す。」の3つを目標に当日を迎えた。

当日、Aは、以前から手紙でやり取りをしていた他校の友だちと1～2分であったが、交流することができていた。交流ゲームでは、相手を見つけるのに苦労していたが、何人かと少しずつ交流ができていた。発表も堂々とでき、練習してきた点が達成できていた。

事後指導においてAは、「発表がきちんとできた。」「他の地区も上手だった。」「他の学校の友だちとはあまり話せなかった。人が多いし、練習や発表があるから。」と感想を話していた。

オ 課題と2017年度への方向性

これまで、「ふれあい大会」は、児童・生徒の貴重な成長の場となっていた。しかし、近年は参加者が増加し、450人を超えたことにより、一人ひとりの活動時間が少なくなるとともに、地域全体の大きな集団での交流のため、より身近な学区の児童・生徒と交流する機会にすることが難しいという課題があった。

ふれあい大会の課題であった児童・生徒どうしの交流を確保するために、学校として、各地区ごとの実施を提案した。他校からも、「一人ひとりの教育的ニーズに対応し、誰もが活躍できる機会とするためにも、より少人数での実施が望ましい。」「地区の実情に応じた交流の場としたい」等の意見が複数出ていたため、3市での話し合いが行われ、2017年度は下の図のように地区ごとに「ふれあい交流会」（※資料1・2参照）を行い、旭市では、中学校区ごとの交流を行うこととした。

図1：各地区のふれあい交流会」の実施内容

銚子市	銚子市全体での発表交流会
旭市	中学校区ごとの交流会
匝瑳市	中学校区ごとの合同校外学習

②中学校合同体験学習会について

2016年度に、中学校区内の小学6年生と中学生の交流を主な目的として開始した。実施時期や内容は、市の研修会や小・中連絡協議会で小学校と中学校の特別支援学級担任が話し合って決定した。

ア 日時 2016年1月27日（金）8：30～11：30

イ 場所 旭市立第二中学校（特別支援学級・調理室）

ウ 内容 自己紹介・中学校についての説明と体験・校舎案内・合同調理実習

エ 児童・生徒の様子

6年生Bが参加した。小学校に帰ってくると、「楽しかった。中学生と話げできた。」と喜んでいた。中学校によい印象をもって帰ってきたことが伝わってきた。「他の小学校の人とは話げできなかった。緊張してたから。」とも振り返っていた。先輩に教わって、自転車の乗り方や荷網の縛り方、制服の着替え方や靴紐の結び方なども体験した。

中学生Cは、「先輩として頑張らなきゃ」と張り切っていた。下級生の前でよいところを見せようと、学校案内や調理で6年生に声をかけて働いていた。この合同学習を機会に、下級生の面倒を見ようという態度が育ったようだった。

オ 課題と2017年度への方向性

入学前に同級生や上級生と顔を合わせて学習することができ、児童・生徒それぞれにとって有意義な会となった。しかし、1度きりの機会のため、思うように交流ができなかった児童がいた。また、小学校担任は1～5年生の指導のため、学校を離れられず、肝心の交流の場面は中学校任せになり、指導や評価をすることができなかった。保護者の送迎が必要なために、参加できない児童が出てくる可能性もあった。1度きりではなく、継続的に交流できる場を作る必要があると考えた。2017年度は、交流の継続性を作っていくために、2017年度から実施の「ふれあい交流会」を有効に機能させ、小学校1年生から交流を充実させていくことにした。

図2：合同学習会の比較

	ふれあい大会	特別支援学級合同学習会	ふれあい交流会
実施年度	～2016年度	2016年度～	2017年度～
参加校	3市の 小学校37校 中学校15校 特別支援学校 3校	中学校区の 小学校5校 中学校1校	中学校区の 小学校5校 中学校1校 特別支援学校2校
参加児童 生徒数	約460人	26人 ※中学生と6年生のみ	約90人（予定） ※全学年参加
内容	交流と各地区の発表	交流と体験学習	交流と各校の発表

(2) 近隣中学校区の移行支援についての調査

東総支部の特別支援教育研究部会において、小中の連携についての質問紙調査を行った。調査の結果、どの地区も、多少の時期の違いはあるものの、児童・保護者に対しては、中学校見学・体験・事前相談会を行い、教職員どうしでは、連絡会において個別の

指導計画や個別の教育支援計画等の文書（※資料3～6参照）を活用しての引継ぎを行っていた。以下に、本中学校区で行っていない実践についてまとめた。

図3：各中学校区の移行支援について

中学校区	移行支援の内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5年生から情報交換、学校見学や移行に向けての指導を行っている。 ・ 中学生が計画する小・中交流行事「クリスマス会」の実施 中学校区の特別支援学級の小学生全員が中学校に集まり、会は、中学生が進行をする。各小学校が出し物をしたり、中学生が中学校の説明を行う。中学生の発表では、「中学校の1日」「中学校の部活」「中学校探検」と3つの内容を1年おきに行っている。（事前に中学生がビデオに撮って小学生に分かりやすいようにまとめている。） ・ 中学校の教員による小学校6年を対象とした特別授業（英語）の実施
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の特別支援学級担任による小学校参観 2月に中学校担任が、小学校へ行き、5・6年生の特別支援学級での学習の様子と通常の学級での交流及び共同学習の様子を観察している。 ・ 小・中の教員で教育課程や実際の指導の内容について話すようにしている。 ・ 7月と11月の2回中学校見学を行っている。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5年生の3月の学年だよりで、卒業に向けた1年のスケジュールを示す。 ・ 中学校区の合同学校公開で小学校の教員と保護者が中学校の授業を参観 ・ 4月の中学校の職員会議で小学校からの引き継ぎ事項を共通理解している。 ・ 5月に入学後の小・中の連絡会を行っている。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小・中合同職業見学・体験 児童・生徒の交流と、保護者どうしの情報交換、キャリア教育を目的に実施している。バスに乗って地域の職場見学や体験を行っている。夏季休業中に実施し、児童・生徒と保護者、教員が参加している。 ・ 特別支援教育担当研修会の活用 7月と1月に行われる市の研修会において、小・中で小学校6年生と中学校1年生についての連絡会の時間を作っている。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月に中学校区の5・6年生の中学校合同見学会を計画している。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の独自の合同学習会の活用 合同学習会「いるか教室」と「卒業を祝う会」において、特別支援学級に在籍する市内の児童・生徒が集まって、交流を行っている。その際に、児童の実態把握と教員どうしの情報交換も行っている。 ・ 校内授業研究会や学校行事を利用した相互参観

これらの近隣の中学校区のとりのくみの中で、本中学校区の移行支援を改善するものとして、「中学校入学前の交流の充実」「移行支援の早期実施」「教員間の情報共有の充実」を行っていくこととした。

早期からの移行支援を行うことで、より早い時期に中学校生活のイメージや心構えを

もって、それに向けて学習・生活していくことで、中学校に適応できる態度や能力が高まり、中学校への移行がよりスムーズになっていくのではないかと考えた。また、小・中の教員間の情報共有については、児童・生徒の情報交換のみで終わっていることが多く、お互いの教育課程や指導態勢、評価の方法や進路指導について情報共有していく機会がなかったため、小・中で指導の様子が違うことはわかっているが、どう違うかは具体的に理解していない現状であった。教職員の情報共有を充実させることで、学校間の相互理解が高まり、小学校6年生と中学校1年生のギャップを小さく滑らかにできると考え、これらを改善するための計画を立てていくことにした。

(3) 本校の幼保小連携との比較

幼保小における引き継ぎに向けた流れ ※は、小中連携と違いのある部分

10月 就学時健康診断（就学支援シートの説明、次年度入学予定児童の状況の把握）

↓

11月 1年生と遊ぶ会（学校紹介・児童の観察・保育士との情報共有）

↓

11月 旭市教育支援委員会

↓

1月 園児とあそぼう会（1年生と園児の交流）

↓

2月 幼保・小連絡会（園児についての聞き取り）

↓

3月 幼・保での観察（気になる園児の観察）

↓

6月 授業参観・連絡会

○小学校の授業を幼・保の先生方に児童の様子を参観してもらう。

○小学校側で情報を得たい児童について、1年生担任や学童で関わる担当が幼・保の担当から話を聞く。

○次年度入学予定で、現時点で支援が必要な園児の情報を聞き取る。

幼保小の連携では、3月に幼・保の授業参観、6月に小学校の授業参観を行っている点で、小中連携との違いがあることが分かった。幼・保との連携のように、入学後の情報共有について早期に授業参観や情報共有を行うことが理想だが、難しい場合でも、小・中で4・5月に電話等で子どもの学校生活の様子を確認し、必要な情報のやり取りを行うことを定例にして、位置付けていくことにした。また、小・中では、口頭や文書での引き継ぎはされているものの、お互いの実際の授業場面や学校生活の様子を参観する機会を作ってこなかった。定期的に授業見学の機会を作っていくことは容易ではないが、授業研究会等の機会を利用して、特別支援学級担任どうしの相互参観を行っていけば、児童・生徒の実態把握を行うことができるとともに、異校種間の相互理解が進み、より適切な移行支援につながると考えた。

(4) 小中の移行支援の改善

図4：2017年度の本校と進学先の中学校における移行支援の流れ

※ 部分が改善を行った部分

月	児童・生徒の交流	移行に向けた支援	保護者との連携	小・中教員の連携
5			家庭訪問	電話等での情報交換
6		中学校特別支援学級見学会 単元		
7	暑中見舞いのやり取り	「中学校の準備をしよう その1」	小学校保護者会 (在籍希望の確認) 小学校卒業生保護者と語る会	
8			中学校特別支援学級教育相談会	小・中連絡協議会
9				
10		単元 「中学校の準備をしよう その2」		旭市教育支援委員会
11	ふれあい交流会			
12			小学校保護者会 (事前相談会に向けて)	
1	中学校特別支援学級合同学習会			
2		「就学支援ステップシート」の記入		
3		中学校特別支援学級入学事前相談会 (児童、保護者、小・中の担当者による4者面談。交流教科や個別の支援について確認する。)		中学校学級編成会議
4				旭市特別支援教育担当者研修会
5				電話等での情報交換

①中学校入学前の交流の充実（ふれあい交流会の計画）

交流の場所は、各小学校の体育館とし、全員が参加できるようにするために市のバスを2台使って集合する形をとることにした。

日時 2017年11月15日（水）9：00～11：30

活動場所 旭市立共和小学校体育館

活動内容 9：00 はじめの会・自己紹介ゲーム

9：35 各校の学習発表会（中学校は、ビデオ・写真で中学校紹介）

10：25 交流ゲーム

11：15 終わりの会（感想発表等） ※頒布会も実施

学習発表会では、中学生による中学校紹介を行う。また、交流の時間を昨年まで実施していた「ふれあい大会」よりも長くとる計画にした。現在6年生となったAは、手紙のやり取りをしている他校の同級生や、中学校に進学したBとの交流を楽しみにしている。また、その他の人とも名刺交換などで親交を深めようとしている。ふれあい交流会については、1年目のとりくみとなる。小学校1年生から毎年9年間継続していく形になれば、児童・生徒の交流が充実していくと考える。まだ計画の段階であり、今後、事前指導・事後指導と合わせてしっかりと計画を整えていき、実践後は、成果と課題を明らかにして行く必要がある。

②早期からの移行支援の実施

中学校移行のための学習は、これまでは市の教育支援委員会の結果を受けて10月から開始していたが、今年度は、6月の中学校見学後で関心の高まっているタイミングで指導を開始することにした。

単元名「中学校の準備をしよう その1」（6月～7月、Aに対して実施。）

時	学習内容	学習の様子
1	小学校と中学校の違いを知ろう	「中学校クイズ」を解いた。小学校と中学校では、どこが違うかを考え、「部活」「自転車登校」「制服」を答えることができた。「教科担任制」「英語」「数学」「50分授業」等を確認した。調べたいこととして部活をあげたので、どんな部活があるか予想をし、答え合わせをした。「ぼくは、水泳部がいい。どんな部活か、中学校の先生に聞いてみる。」と話していた。
2	中学校の行事を調べよう	中学校のホームページでの調べ学習を行った。「行事が多いね。」「なんで衣替えが行事なの?」「生徒会役員選挙って何?」「テストが多い。」「三者面談って家の人と一緒に面談するの?」等の感想や疑問をもつことができた。文化祭や生徒会については、自分でさらに検索をして、合唱中心の行事であること、学校の代表を決める選挙で自分たちが投票できること等が分かった。
3	友だち作り名人をめざそう	中学校生活をより楽しくするために「友だち作り名人」「勉強名人」をめざすことを確認した。「友だち作り名人チェックリスト」を使って、何を頑張れば友だち作り名人になれるか確認した。「かっとなっても怒らずがまんする」が苦手と答えたので、「気分転換リスト」を作って、「楽しいことや別のことを考える」等の目標を立てた。
4	勉強名人をめざそう	「勉強名人チェックリスト」を使い、「授業を集中して聞く」ができていないと答えたので、「授業で聞いたことを後で先生に話せるくらいよく聞く」という目標を立てた。中学校の時間割を確認し、「英語が多いね。やっぱりローマ字は書けたほうがいいかな。」「技術が楽しみ。」と話していた。

本単元で目標にしたことは、「現在挑戦中！」という掲示物で教室に掲示し、毎日意識できるようにした。他の学習との関係で、4時間だけの展開となった。後期には、「中学校への準備をしよう その2」として、「中学校についてインタビューをしよう」「他校の6年生に手紙を書こう」「前向き名人になろう」「自分のプロフィールを作ろう」等の学習を計画している。

③教員間の情報の共有の充実

市の研修会や中学校区の小・中連絡協議会などでの情報交換を充実させた。

ア 中学校の現状について分かったこと

中学校の教育課程や中学校見学会の保護者配布資料、中学校の校則や中高連携の資料等を共有した。以下のような情報を得ることができ、中学校の現状への理解が高まった。

- ・特別支援学級の担任が特別支援学級での指導を行うのは、12時間程で、残りの時間は、通常の学級で専門教科の指導をする必要があること。
- ・特別支援学級でも、担任以外の指導を受けることになるので、場合によっては、1つの教科を2～3人の教員が指導することがあること。
- ・課題や宿題のサポートをし、必要に応じて、通常学級と同様の評価の仕方もしていること。
- ・進路希望によって、1年生から教育課程が大きく変わってくること。
- ・特別支援学級では、1年生から高校見学等の進路指導を行っていること。高校進学希望者には、中学校3年生では、交流学級の時間を徐々に増やしていき、3学期に全て交流学級で過ごせるように移行していつていること。
- ・中学校卒業後の進路は様々（公立高校・私立高校・通信制の高校・特別支援学校高等部・就職・在家）であり、高校進学希望者であっても、入試合格に向けた指導以上に高校進学後の適応に向けたとりくみを行っていること。
- ・高校入試では、特別支援学級への在籍の有無によって差別されることはないこと。さらに、受験における「配慮申請」により、不安が軽減される方向で進んでいること。

イ 「卒業生保護者と語る会」の改善

中学校の教員と移行支援について話し合う中で、中学校の指摘で、本校が移行支援の一つとして行っている「卒業生保護者と語る会」という行事の課題に気づかされた。卒業生の保護者に中学校生活や進路選択等の体験談を話してもらい、小学生の保護者が中学校生活についてのイメージを具体的に持ってもらうのを目的に行っている。小学生の保護者は、語る会で、先輩保護者の話したことが当たり前と思ってしまう、それが、誰に対しても行っていることなのか、生徒の特性に応じた特別な合理的配慮によるものなのか等は区別がつかない。中学校に入学してから「こういうふうに聞いていたのに。」と、誤解を生む可能性もある。そうならないために、中学校の教員の参加を依頼するなど、対応をしていくことにした。

ウ 相互授業参観の計画

今年度は、1月に本校の授業研究会が行われるため、その機会に授業参観を行う方向で計画を進めている。

エ 個別の指導計画の一部共同作成

小・中連絡協議会や特別支援担当者研修会等で「中学校入学までにつけたい力」についても継続的に話し合いを行ってきた。中学校が新生入生に期待する力を「出された課題に挑戦しようとする力」「自分のことを自分でやろうとする力」と共通理解した。それをAの実態に照らし合わせて、Aの個別の指導計画の目標の中に、「30分以上意欲的に課題に取り組めるようにする。」「時間を守って行動しようという意識を高める。」を組み込んで指導をしていくことにした。

オ 教科担任制に向けての対応

子どもたちは、中学校では、10人程度の教科担任に指導を受けることになるが、Aは現在、担任・交流学級担任・理科専科・音楽専科の4人に指導を受けている。より多くの教員から指導を受ける機会を作っていくために、他の特別支援学級と国語の交換授業ができないか、計画している。

4 結論

(1) 仮説について

<仮説(1)の検証>

本地区の合同学習会の課題を検討し、児童・生徒の交流の場としての視点で見直しを行うことで、中学校区内の交流が充実し、中学校入学前の不安軽減につながる学習会が計画できるであろう。

昨年度までの課題を検討することで、交流がより充実する形で、合同学習会「ふれあい交流会」の実実施計画を立てることができた。「ふれあい交流会」は、本地区の合同学習会の課題「中学校区の児童・生徒が交流する場が少ない。」「実際の交流の場に小学校教員が参加できない。」等の課題を改善するとりくみであり、交流が充実することが期待できる。中学生による中学校生活の紹介や、他校との交流の時間をとることにより、中学校入学前の不安軽減につながると考える。しかし、11月実施のため、現段階では、実際にとりくみを行って、その成果を検証するまでには至っていない。とりくみ後の検証を丁寧に行っていく必要がある。

<仮説(2)の検証>

小中の移行支援について、近隣の中学校区のとりくみの様子や、幼保小の移行支援を参考にすることで、改善方法が明確になり、よりスムーズに進学を支援するためのとりくみが行えるであろう。

中学校への移行支援について、他の中学校区のとりくみを参考にすることで、「中学校入学前の交流の充実」「移行支援の早期実施」「教員間の情報共有の充実」等の課題が明確になり、スムーズに進学を支援するためのとりくみを行うことができた。中学校移行のための学習を早期に実施したことで、Aは早い段階で中学校進学に向けての自らの課題を理解し、生活や学習において、改善していこうとする姿が見られた。入学までの期間が長くとれるために、これから中学校に向けてさらに高い課題に挑戦

させることができると考える。また、市の研修会や小・中連絡協議会等の小・中の教員の話し合いでは、児童・生徒の情報交換だけでなく、互いの学校の指導体制や教育課程、移行支援等について資料等を活用して共通理解を図ることができた。

(2) 成果と課題・今後の方向性

- 児童や保護者が、中学校からの寄り添いをひたすらに期待し、求め続けるだけにならないよう、小学校の段階で、中学校への移行に向けて教育課程の充実を図り、中学校生活に対して主体的に折り合いをつけていく力を育てていくことの重要性に気づくことができた。
- 「ふれあい交流会」や「教員の相互授業参観」等については、今後実施予定であり、成果と課題を検証するまでには至っていない。とりくみ後の検証を丁寧に行い、来年度改善を図っていく必要がある。
- 今回は、移行支援全般について、よりよい方法を検討してきたが、今後は、「児童に対する支援」や「教員の連携」「保護者との連携」等、焦点をしぼっていくことで、さらなる課題が明確になっていくと考える。
- 小中の移行支援にかけられる時間は、どの学校にも限りがある。より効果的な方法をとっていくためにも、何らかの尺度を用いて各とりくみを数値的に検証し、より効果的なものを選んでいく必要もあると考える。
- 小中連携の課題については、東総支部の特別支援教育部の教員からは、以下のような課題も出ている。地域の課題として、支部で協力して解決策を考えていきたい。
 - ・中学校入学を機に通常の学級に籍を変える児童への支援。
 - ・中学校入学を機に特別支援学級に籍を変える児童への支援。
 - ・中学校と特別支援学校とで進学先を迷う保護者への支援。
 - ・自閉症等、環境の変化に弱い児童への移行支援。小学校6年生での指導方法をより中学校1年生の指導に近づけていく等の方法の検討。
 - ・担当者の違いによって情報の差やもれ落ちのない確実な引き継ぎができる引き継ぎ用紙の作成。
 - ・保護者の思いを確実に引き継ぐ方法。
 - ・中学校入学前に児童に身に付けておきたい内容の共有。
 - ・中学校生活が想像できるようにするためのDVD等の映像教材の作成。
 - ・異学年が互いに尊重し合い、中学校進学で上級生と会うのが楽しみになるような交流。
 - ・小学校段階での、中学校の特別支援教育についての情報発信のあり方。
 - ・児童の実態と保護者の希望に大きな差がある場合の支援の進め方。

資 料

内容	項
1 合同学習会の内容変更にかかわる資料 資料1：「ふれあい大会」が変わります 資料2：「旭地区ふれあい交流会」への参加について	1 2
2 小中連携で主に活用している書類 資料3：旭市個別の教育支援計画 資料4：旭市個別の指導計画 資料5：旭市就学支援ステップシート 資料6：移行支援シート	3 4 5～7 8

特別支援学級児童生徒の保護者様

千葉県特別支援教育研究連盟東総支部

「ふれあい大会」が変わります

日頃より保護者の皆様には本支部の活動にご理解とご支援を賜りお礼申し上げます。

さて、毎年11月にいいおかユートピアセンターで開催してきた「ふれあい大会」については、子どもたちの発表が素晴らしく、よい体験の場になってきました。しかし、人数が多すぎて一人一人の教育的ニーズに対応しきれない、子ども同士の交流時間が少ない、準備や練習に多くの時間がかかってしまうなどの課題も出されていました。また、会場スペースも限界にきており、参観された方に立ち見をお願いせざるを得ない状況もありました。

そこで、本年度より、一人一人の教育的ニーズに応じた活動や活躍の機会を増やし、交流を深めるために、規模を縮小して各地区の実情に合った交流の場（ふれあい交流会）にすることにしました。

新たな「ふれあい交流会」についてご理解をいただきまして、今後とも、特別支援教育へのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

ふれあい大会

(～平成28年度)

- 発表が素晴らしく、この活動を通して積極性が育った子もいるなど、子どもたちのよい体験の場に。
- 三市三特別支援学校合同の大会形式では会場が限界に。
- 人数が多すぎて一人一人の教育的ニーズに対応が難しく。
- 準備や練習でたくさん時間をとるが一人一人の活躍の場が限られる。
- 子ども同士の交流がもう少しほしい。

ふれあい交流会

(平成29年度～)

より一層、一人一人の教育的ニーズに応じ、一人一人の活躍の機会を増やし、交流を深めるために

【銚子地区】銚子市全体での発表交流会

【旭地区】中学校区ごとの交流会

【匝瑳地区】中学校区ごとの交流会

※特別支援学校の子どもたちは、各地区の活動形態に合わせた参加

※保護者、関係者の参観（参加）の機会は、これまで通り確保

資料 2 : 「旭地区ふれあい交流会」への参加について

平成 29 年 9 月 日

保護者 様

千葉県特別支援教育研究連盟
東総支部長

平成 29 年 旭地区「ふれあい交流会」への参加について (お願い)

仲秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、平成 29 年度から、別紙のとおり「ふれあい交流会」を実施することとなりました。つきましては、お子様の参加に、ご理解とご協力をお願いいたします。また、お忙しいこととは存じますが、子どもたちの応援に来ていただければ幸いに存じます。よろしくお願いいたします。

記

平成 29 年度 旭地区「ふれあい交流会」実施内容一覧

学区	開催日時	会場	概要	交通手段
旭一中	11 月 15 日 (水) 9:30 ~ 11:30	矢指小	・ミュージックケア ・ケーキ作り	保護者送迎 自転車 (中学生)
旭二中	11 月 15 日 (水) 9:00 ~ 11:30	共和小	・自己紹介 ・各校学習発表会 ・交流ゲーム	市バス
海上中	11 月 15 日 (水) 9:30 ~ 11:30	海上中	・スイートポテト作り ・クイズで交流	循環バス
飯岡中	11 月 14 日 (火) 9:30 ~ 11:30	飯岡小	・調理 (蒸しパン・グミ作り)	保護者送迎 タクシー、徒歩
千潟中	11 月 29 日 (水) 9:00 ~ 11:30	千潟中	クリスマス交流会 ・自己紹介 ・学校見学 ・クリスマスパーティー	タクシー、徒歩 (保護者送迎)

※しおりは後日配布いたします。

※不明な点については特別支援学級担任にお問い合わせください。

「ふれあい交流会」に参加します。

参加児童・生徒 () 年 氏名 ()

保護者 () 参加します () 参加しません
→ () 名

※ 9 月 日 () までに特別支援学級担任に提出をお願いいたします。

資料3：旭市個別の指導計画

旭市 学校 担任名() 記入者名()			
児童生徒氏名		生年月日	
指導開始日	平成	指導時数	時間/週
諸検査の様子			
生育歴・相談歴			
願 い	(本人)		
	(保護者)		
児童の姿態	生活面		
	学習面		
	運動面		
	対人関係		
	集団行動		
	情緒面		
指導の方向性と			

旭市個別の指導計画(裏)

	長期目標	支援の基本的方針(手立て)	主な指導の場
生活面			
学習面			
行動面			

1 学期 の 取 り 組 み			
	指導目標	指導内容と手立て	活動の様子・評価
生活面			
学習面			
行動面			
来学期の指導の方向性			

資料4：旭市個別の教育支援計画

個別の教育支援計画									
旭市立 学校			作成日			記入者			
			平成 年 月 日						
氏名		生年月日	年 月 日	性別		年組	年 年 年	組 組 組	
住所					連絡先				
【現在の様子・望む姿】									
本人									
保護者									
【関係機関での支援内容】 ※名称、担当者、電話番号、具体的な支援等									
家庭	学校	医療	福祉	地域					

旭市個別の教育支援計画(裏)

【支援等の記録・合理的配慮】

このシート情報を支援関係者と共有することに同意します。

平成 年 月 日 保護者氏名 印

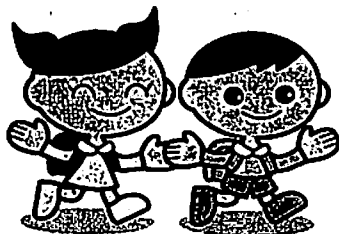
わくわく・ドキドキ楽しい小学校生活のために

旭市就学支援ステップシート

子どもには、さまざまな個性があり、豊かな可能性があります。どの子どももかけがえのない存在です。

まもなく、お子さんは、小学校等への入学を迎えますが、保育所（園）・幼稚園・療育機関や家庭などで今まで大切にしてきたことや、小学校等に引き継ぎたいことがあれば教えてください。

子どもは、家族の宝であり社会の宝です。一人一人のお子さんが、楽しく充実した学校生活を送ることができるよう、お子さんに必要と思われる支援や配慮についてみんなで一緒に考えていきましょう。



☆保護者記入

ふりがな		性別	
お子さんの氏名		保護者氏名	
(生年月日)	(平成 年 月 日)		
在所（園） 保・幼名		就学予定校名	

	保護者から
<p>①お子さんの良いところ・好きなこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お子さんの良いところはどんなところですか。 ・お子さんの好きなことはなんですか。 <p>(場所・人・もの・遊びなど)</p> <p>☆たくさん書いてください。</p>	
<p>②健康・身体に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康上・身体上、気をつけることがありますか。 ・体全体の動き、目・手・指の動き、器用さ、動作に心配なところはありませんか。 ・かかりつけの医師がありますか。 	
<p>③人とのかかわりに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションする力・認識する力で気になるところはありませんか。 ・友だちとのかかわりで心配なところはありませんか、どうするとうまくいきますか。 ・集団での動き、行事の参加等について気になるところはありますか。 	
<p>④性格・行動・日常生活に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身支度・食事・トイレは一人で行えますか、どうするとうまくいきますか。 ・家庭での生活習慣（睡眠・食事・排便等）で気になるところはありませんか。 ・嫌いまたは苦手な場所、人、もの、遊び、音などがありますか、どうしたら大丈夫ですか。 ・家や保育所（園）・幼稚園等でつまづいていることがありますか、どうするとうまくいきますか。 	
<p>⑤子育てや保育での工夫や必要な配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てや保育で大切にしてきたことがありますか。 ・就学後はどんな支援を望みますか。 	



保育所（園）・幼稚園から

--

☆保護者記入欄

このシートの情報を支援関係者と共有することに同意します。

平成 年 月 日 保護者氏名 印

○入学後のステップ <学年末：保護者記入>

☆1年間を振り返って、お子さんが成長されたこと、引き続き次年度に引き継いでいきたいことなどを記入してください。保護者の方の思いを次年度の担任へ引き継ぎ、お子さんへのより良い支援に努めていきます。

1学年	保護者印	2学年	保護者印
3学年	保護者印	4学年	保護者印
5学年	保護者印	6学年	保護者印

◆担当者記入

作成機関 (保・幼 名等)		所長・園長	
		記入者	

☆ このシートの情報を共有しました。

学校名	
-----	--



入学年度〔1学年〕

校長印	担任印	その他の支援関係者印

2年度以降〔2学年～6学年〕

2学年	3学年	4学年	5学年	6学年
校長印	校長印	校長印	校長印	校長印
担任等印	担任等印	担任等印	担任等印	担任等印

資料6：移行支援シート（ 小）児童氏名（ ）記載者（ ）

このシートは、担任の先生方から、今までの支援中で大切にしてきたこと、配慮してきたことを教えていただき、これからの支援に役立てていくことを目的としています。

生徒の良いところ・好きなこと ・児童の良いところ ・児童の好きなこと	
健康・身体に関すること ・健康上・身体上気をつけること ・体全体の動き・手・指の動き、器用さ、動作について気になること。 ・かかりつけの医師	
人とかかわりに関すること ・コミュニケーションする力や認識する力で気になること ・友達との関わりで気になること（こうすればうまくいく） ・集団での動きや行事への参加で気になること（こうすればうまくいく）	
性格・行動・日常生活に関すること ・生活習慣で気になること（睡眠・食事・身支度など） ・嫌いまたは苦手なもの（こうすれば大丈夫） ・学校で困ったこと（こうすれば大丈夫）	
学習に関すること ・学習習慣（時間・塾なども） ・得意なことや学習、教科 ・苦手なことや学習、教科（こうすれば大丈夫）	
進路に関すること ・趣味や特技 ・憧れている人 ・将来の夢 ・卒業後の進路希望	
外部機関の活用 ・お子さんが関わっている外部機関（機関名・頻度・内容など） ・家族以外の連絡先	
学校生活での工夫や必要な配慮事項 ・結合・分離・親戚 ・習癖など	
家庭環境 経済的なこと（集金など） 家族構成 家の人の考え	
その他 ・今後のことで心配なこと	